

令和元年度 総務区民委員会 視察報告書

担 当 : 品田ひでこ 白石英行

視察名称 : 熊本県 玉名市

視察日時 : 令和元年 11 月 7 日 (木) 12 : 30~15 : 30

視察目的 : 大河ドラマ「いだてん」及び金栗四三氏に関する玉名市の取組み調査・研究

<視察先対応者>

【玉名市議会】

中尾 嘉男 議長 様

多田隈 啓二 委員長 様 (金栗四三地域創造戦略特別委員会)

西川 裕史 委員長 様 (議会運営委員会)

田畑 久吉 委員長 様 (建設経済委員会)

内田 靖信 委員長 様 (総務委員会)

徳村 登志郎 委員長 様 (文教厚生委員会)

北本 将幸 委員長 様 (議会広報公聴特別委員会)

【玉名市】

産業経済部主席新議員 石井 利幸 様

金栗四三 PR 推進室長 津川 隆一 様

金栗四三 PR 推進室係長 原田 貴央 様

■視察先対応者説明 (取組みの目的・経緯・特徴)

1. 玉名市議会としての取組み・経緯

・議会独自の取組として「金栗四三地域創造戦略特別委員会」(委員 11 名)を設置。目的は、大河ドラマを活用した ①地域活性化 ②地域振興、集客、誘客 ③金栗四三記念とした事業 とする。

さらに、3 部会に分かれて週 1 回~2 週 1 回のペースで委員会開催し、市の取組よりスピーディーに進めた。 ①観光部 ②PR 宣伝部 ③飲食・おもてなし部

・また「議会 PR 動画」を企画・作製しユーチューブに配信した。

内容は、全議員が 3 常任委員会に分かれて、全員協議会・代表者会議の様子や 3 部構成で撮影した。

① 総務委員会 (玉名市ラーメン) ②建設経済委員会 (温泉足湯)

② 文教構成員会 (金栗四三の母校 玉名高等学校)

議員全員自腹で作成 作成費用約 12 万円 (@5,500 円/一人負担)

テロップは、地元のケーブルテレビの協力を得てユーチューブで発信中。

視聴回数目標 1 万回 (現在約 7 千回) ※「皆さんも是非観てください。」とのこと。

2. 玉名市役所としての取組み・経緯・予算.

・2019 年大河ドラマ「いだてん」の主人公の一人、また日本初のオリンピック選手「金栗四三」氏を玉名市の「名誉市民」とした。NHKの「大河ドラマ」への誘致活動はしておらず、選ばれた理由は、来年の 2020 東京オリンピック開催によるものと考えられる。

・千載一遇のチャンスとして「大河ドラマ関連事業」を企画、玉名市の魅力や経済効果を期待して展開している。

① カウントダウン事業・・庁内入口にカウントダウンボード (玉名工業高校生徒作成) を設置、公用

車等にPRラッピング、職員の共通ポロシャツ・ジャンパー作成、また観光等地域振興にPR活動を展開した。

- ② 「玉名市・和泉市、南関町大河ドラマいだてん地域振興協議会」設置・・・観光や地域振興を目的。3自治体を一体的、かつ広域的に積極的に発信するため「金栗四三」PRロゴマーク作成、「金栗四三」ゆかりの地として誘客推進業務（観光商品・旅行社への情報提供）。共通の半被、ジャンパー、のぼり作成しPRに努める。
- ③ 「玉名市いだてん地域振興協議会」・・・今回のドラマを契機に「金栗四三」氏が残した功績や日本のスポーツ振興にかけた熱意を故郷玉名市から全国に発信する。
- ④ レガシーとして、市では「フルマラソン大会」を2020年2月23日に開催し、偉業を受け継いでいく予定。

#### ■ 「いだてん大河ドラマ館」事業説明と現地視察

- ・期間：平成31年1月12日（土）～令和2年1月13日（月・祝）の限定で無休。
- ・「ドラマゾーン」と「史実ゾーン」（ドラマと体感シアター）で展示・・・館内
- ・総事業費：4億5千万円  
建設費 103,687千円、（撤去費含む）  
展示工事費 19,400千円  
販売管理費 122,081千円  
情報発信費 11,950千円  
その他経費 18,800千円
- ・補助金、交付金を活用し、残りの市の負担額約3億7千万円は、30年度・31年度2か年で執行する。  
国：「地方創生推進交付金」1,000万円  
熊本県：「地域づくり夢チャレンジ推進補助金 1,000万円  
「県広域連携プロジェクト推進補助金」9,91万8千円  
「復興基金交付金」3,700万円
- ・地元地域の方の寄付やふるさと納税も多くいただいた。
- ・ドラマ館と併設に地元物産販売や地元企業、銀行も協力し街の魅力を発信している。
- ・「いだてん商品」を製造販売したかったが、残念ながらIOC（スポンサー）やNHK等の許可が得られず、金栗四三をPRするしかなかった。

#### ■ 「玉名市歴史博物館こころピア」現地視察

- ・金栗四三氏の幼少期からの写真やゆかりの品、功績が展示されていました。
- ・4つのエピソード
  - ① 日本初のオリンピア・・・1912年（明治45年）第五回ストックホルム大会に出場
  - ② 世界記録を3回更新・・・現役中非公式ではあるが、2時間19分20秒3の世界最高タイム。
  - ③ 日本のランニングシューズの元祖、金栗足袋で激走・・・足袋屋「ハリマヤ」は文京区にあった。

#### ■ 「玉名市と文京区との相互協力に関する協定の締結」

会場：玉名市歴史博物館こころピア 15:00～

- ・総務区民委員会委員全員で、相互協定の場に立ち合わせて頂きました。

■ 質疑応答：

質問：大河ドラマ事業の事業経費 5 億 6 千万円に対し、国と県との交付金・補助金の関係は如何か？

回答：国の地方創生推進交付金や県の地域づくり夢チャレンジ推進補助金など 7500 万円を活用し、単年度ベースでは熊本地震復興基金交付金やスクラムチャレンジ推進補助金を活用。

一般会計からの支出については、玉名に訪問又は知って頂く事による経済・地域活性化へ波及効果を千載一遇のチャンスと捉え、各部署においても P R 予算を進めると共に次世代に継承される仕組みを構築してきた旨を議会に報告している。

質問：地域産業の活性化・連携状況は如何か？

回答：地域協議会を立ち上げ、各種団体が参加のもと P R や商品開発を行ってきた。肥後銀行が県内小・中学生に大河ドラマ館の無料招待券を配布するなど取り組みは進んできたが、商品開発には I O C からの規制があり、「いだてん」に関する商品の規制は大変厳密であった。

質問：市議会に平成 30 年設置された「金栗四三地域創生戦略特別委員会」と行政の関係は如何か？

回答：市に金栗四三 P R 推進室が設置され職員 4 名でスタートした中、市議会と一緒に P R を推進する趣旨で設置され、週に 1 回の委員会開催を行い、提言を頂きながらできることからやってきた成果は大きい。また、議会が作成した P R 動画も評価されている。

質問：記念マラソン大会とは、新設されたものか？警察等の協議は如何だったのか？

回答：約 3 年の調整を経て 6000 名参加している既存の横島いちごマラソン大会のハーフマラソンをフルマラソンに変更し参加 2000 人枠で来年 2 月に実施する。

■ 資料：・大河ドラマ「いだてん」に関する事業説明（玉名市作成）

- ・「いだてん大河ドラマ館」の整備状況等（玉名市産業経済部）
- ・「スーパーヒーロー金栗四三ガイド「びっくりかなくり」
- ・「いだてん大河ドラマ館」（来場者に配布ガイド）